

第9回 【30年度】 徳育推進フォーラム

平成30年9月29日(土)
(於) 佐世保市体育文化館コミュニティセンター



座談会「徳育推進活動の新たな一歩のために」



佐世保徳育推進会議 会長
木村 勝彦

この座談会では佐世保市の3名の歴代教育長、鶴崎耕一さん、永元太郎さん、西本眞也さんを、さらに徳育推進会議会員で広報部長の大鳥居祥子さんをお迎えし、徳育推進活動のこれまでの経緯を振り返り、今後さらにこの運動を活発にしていくためには何が必要なのかについて語り合っていました。行政が徳育に関わることの困難さにあえて挑戦し、佐世保徳育推進活動を起ち上げた熱い思いから始まり、これまでの歩みをどのように評価するかについて、時にご自分の家族や地域社会にまつわる心温まるエピソードも交えながらの率直かつユーモラスな語り合いを通して、会場の皆様にも徳育に対する関心を新たにしていくことができたのではないかと思います。佐世保市における徳育推進活動も10年に及ぶ歴史を刻み、さらに充実した将来への新たな一歩が踏み出されなければなりません。市民一人一人が佐世保市のあるべき「まちづくり」の姿をどのように思い描き、実現させようとしていくのか。徳育推進活動の拡大と浸透は、そうしたまちの将来像と展望に深く関わっていることが、今回の座談会で再確認されたように思われます。

佐世保市教育長

西本 眞也



今回、徳育推進フォーラムの座談会に参加させていただき、徳育に対する思いを話すと共に、諸先輩方の貴重なご意見を聞くことができたこと、誠に感謝申し上げます。当日の座談会でもお話ししましたが、やはり「まちづくり」は「人づくり」が出発点になっていると思います。

私は個人的には人を性善説で見えています。というのも、孫が生まれて、その瞳を見たとき「どうしてこんな瞳をしている人間が“悪いこと”を考えうるだろう」と思ったことに端を発します。

まだ何も知らない無垢な瞳を見てそう思うと同時に、これから生きていく「人」を形作るためのより良い環境を整えていくことは、大人としての使命であるとも考えます。

挨拶一つをとってもそうです。大人が率先して挨拶をしよう、その姿を子どもたちに見せていくことが、見ている子どもや実践している大人の徳を伸ばし、人を作っていくのだと思います。

「徳は孤ならず 必ず隣あり」という言葉があります。なかなか自分から実践しようとするのと照れや他人の目が気になります。その一歩が踏み出せないのですが、思い切って実行してみると、その行いに共感を抱いて下さる人が周りにいます。挨拶すると相手も気持ちが良いはず。その気持ちが伝わり広がっていく、そういう社会になればこれほど喜ばしいことはありません。

これまで先輩方と市民の皆様で築いてきた徳育の土壌と、そこに芽生え、成長してきた樹を、決して枯らすことなく耕し続けていく事で、これからの時代を担う子どもだけでなく、若者からお年寄りまで、感謝と思いやりの心が育まれていくことを信じています。これからも徳育の推進に携わっていただこうと思っています。

佐世保市前教育長

永元 太郎



経緯について若干補足しながら関係者の皆様にお礼申し上げたいと思います。

前半の懇話会としては、平田徳男先生、山崎滋夫先生、藤原善行先生の3人の学識者と行政職を合わせて7人のメンバーで色々な観点から1年間5回の研究会、また全国で唯一市として「徳育」に取り組んでおられました静岡県袋井市への視察も行ったところでございます。

タイトなスケジュールでしたが、密度の高い議論を3人の先生方のご指導もあり進めることができました。市長に対し、この懇話会のまとめを平成22年2月に報告したところでございます。

後半の会議は、懇話会の中でも出ました「佐世保市徳育推進会議」を間をおかず平成22年3月に設置し、徳育推進の具体的な手法について検討していただき、指針としての「徳育推進の行動計画」を平成23年の11月には、市長に提言されました。メンバーとしては、教育、家庭教育、また社会教育関係の方々、宗教界等の14名の方々と平田先生にアドバイザーをお願いし発足したものです。宣言文案作成、推進母体の設立準備会等も入れますと、14回もの会議を精力的に進めていただきました。将来的な事業展開を考えたとき、このような会を設立できたこと、また多くのメンバーの方々に参加していただいたことは行政の考えも理解していただいたと思っており、難しい問題でありましたがエネルギーに動いていただき心より感謝申し上げます。